

すずむし

Vol. I, No. II

1951年1月

倉敷昆虫同好会

昆虫の休眠とはなにか 大原農業研究所 中塚憲次

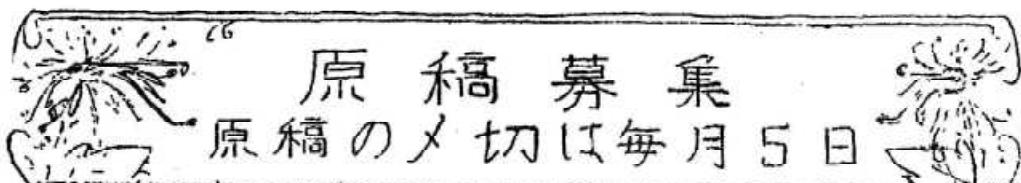
休眠と言う言葉は昆虫の専門書を見るとどこかにこの二字が目につく植物には休眠現象はある。始めて此の様な字を見た人は休眠とは何だらう？ 何かしら虫が入眠と同じ様に眠るのだろうか。と誤向を持たぬマジで思ひます。こり休眠はいつどのようは特別に行なうのだらう。夜か白天か春か秋かいつだらうと、それは現在日本では大体或る種のものに夏眠と云つて暑い4ヶ月頃つまり何を食べていで土の中から土の中でも眠ります。又冬眠と云つて冬10月頃へ3.4月頃迄土の中とか植物の中、或ひは表の生き下等で冬を越していきますその冬眠は大休眠と云ふ状態にあるのです。夏眠とか冬眠とかの体内生理と云つたせいか少しことはじめの場合にして、夏眠と冬眠しての生きの昆虫の種類はどうとか多いとか申しますと大体冬眠する昆虫の方が多い様です。前回はこの附近で最近特に問題になつてゐる野菜類出でんかで、後者に類するものは皆さんかホットで解めて大喜びでした。アゲハ蝶類とか、シシミチョウ類、その他多くのものがこれに属します。树でそれでは休眠する場合昆虫はどんな状態、即ち幼虫中態や蛹期中態、卵態のいずれの時期に休眠に入つてゐるかと申しますとやはり種々な中にドツて幼虫態で又成虫とののは蛹態で、又卵態、成虫態と云つた横山翁種の昆虫に多く生れは各々が全部異でした形で休眠しているモチニセミ小さの蝶虫はその種休眠の事と云つてそれが宿主の241種。それは或る意味非識者かく（普通科学者は休眠

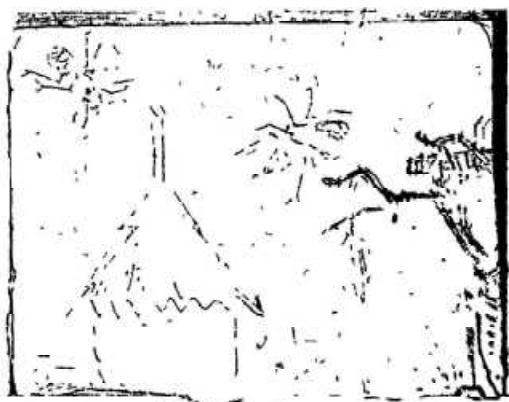


2 (66)

卦見モ一ノばと非即ナシヨ休乃
はミテト向ミえと合の事。ちにミ
のハフナ則ミ例の場も下すが様た
もモ深取モカニ度したま化のリコ
ミオ見冬ニ温容せなり羽モニ云
又産例モヨニ定牧リニ尚モガヒトス。非モ例く眼モなヨ
又、涼一ノすモニモ出ガ位豆ノミキおナヒ休モラナ
ナ眠カ取眠見リ度ナ成トヨニセドニ義テマ少でした化
ニ休うニ休ヒ或温厚くの15さまリ思定リハテ然モ虫
飛通よ例でモさレ温姫モハ長き深との空てヒ虫ヒ應成
ヨ(善)モ態ハ向ナトイ合のす。たフ研フフ効は一シ
れ寸でウ蛹モヒ様の場位にのづガガにはに化
ヨニヨ期しす。のちれた日例となつ達ハ眠風モの蛹
ホのモ午冬眠えどもさし60ノリに春が休の物とす。つ今量理モヒ期シリヒトニ
てモナハ休休一ににな。春40の達リの半事の(ニセタ節)で云ヒ筒生ニ矣。冬味フフ究等
ツカ位モ大化ヒトニカ收後んはかも絆ハ虫虫モヒヒトカ々上内常の意に研ヒ
云モニハ蛹モミシ蝶。眠ニ容はナリヒ白蝶蝶ガ云めこと色以你。非ニヒ眠眠的ヒ
ヒカビモウモヒトナヒ虫体C。收は題モ々面化化のとさう眼がナ。合で眠風休研ヒ
ハモカハヨ外葉。自成モ25は上向加云色はニニとさう四夏す。まし場の冬休の基ル
發ハ小え。野掠云面くなは者。以う事ヒ在様のす。た雲ガヒカマハミの云記。出生30
が長ヒ側ロニ頭ヒヒ早モ。後す云。現リ生まつさ眠ヒヒ想見。こは上ナ蝶先すに
度に小す。50.0す。にナ者。ヒトア休く。次先み云即休か眠。方ヒテはエ。た。終化次肉若
深常で。未シ日モ25。ま寧。前モの眠れしが次モ。度のめ冬がいベ。説。一にニ星に參

X 1.7. 1951





おとしがみ（昆虫短信）

シルヴィア・シジミ の雨記録

に此津友にあ告前承記。鬼12
FENTON 年市が体で取館取年。51もは
本見山銘値3御書である。19体馬
ばを岡記たよ氏國力りま。X個細
ミタ神カ山の茅高た於し。27のにて
既向(けさ)山附得に告半この
シト田於隻の小大し内故一藏主
アで黒に株体を岡集構御島へと
ハイ地外洋だ御船た様大7津及し
ジ入倉高3上るにでえ銘岡算次

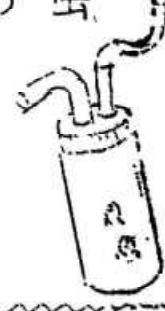
鶲形山蝶類目錄

に一種追加

46,3. A 1 ♂ v. ♀ = ♀ Satyrus
dryas bipunctatus (Motsch)
WISKY 15/6/11 在 3 月 6 日

3 (67) の書天下
皆走りま
同清引き 11.3
陰行一お
川三まで
集年一
孫一美加
に中孫道
山南子に
形歎一
鶴會介
こ

風時に螢光燈
に飛来せる虫



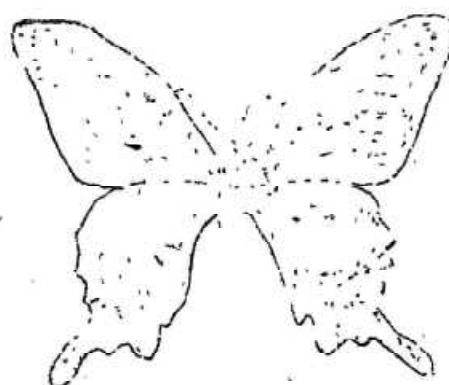
たしもあた山ゴトクなつま衆が、曰てのにと氣な見てで
方近とがつほんくれや中でガたニのい中つく當出つエ
地接で風方にケ多ミてりんイ未今なるい全にのせば
本リ沐りでせシリ見一風極大ては期てい外にととゞ
自禽業者とつ可也たがな餘い程ん山中を經いてカツ等盛めての中でこす
又に晨晉代は力20夷風かのじらあ力がし分も一ニや彼最極しき連いは連日
年秋原の野行冬後フ融にそぐは遊尾イ少臣にかどき化はうイモジ自二、中
本に大所支主たりカジてリ千量四川ノは燈火空のほと羽敷ミナホでく少々
る日帝夷で祭りモヤーフおカ雲時まく蓬點さんと頭ツの生ガカラリ全いた
去は數研燈觀てはにマにて風リが見り者いとどたるメ目發だニ見及けた裏

4.(E8)

おどろかれてゐる様やつて来て、いざい前にりゆ動いて、アマ、白鷹ハモーザリ
ヒキアゲてしまつた。普通で見ることの出来ないこの連中が毎度時々異状な
氣象下に空飛んでつづくふう面白いと思つたので報告して置く

(小野洋)

道後山産蝶類2,3につ いて 廣瀬義鶴



ミヤマカラス

21-VII. 1951. 竜谷等(道後山に於
長旅行を試みて後日に併いたる)の蝶
類について簡単に紹介しておこう。年是
3. I.) 十六ニカケル Aude にてルナ
ルルル・ミツタテモ FUKUH. TUREK
道後山駅附近(小野氏は山麓附近で目
撃)には特に多産でさむく他には見
りかただ。短時間に1合1,2頭を採
集いざれど完全新鮮(採集時期は二
箇か一箇適当な様うと限らぬ)であ
つた。サカナカクシ群生している附近
を観察する。

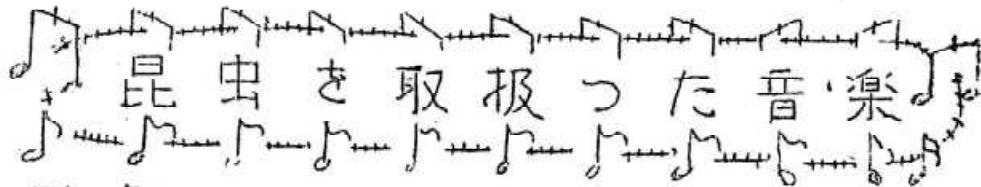
二) ミヤマカラスアゲハ Papilio miyakii 5271KIR-MATSUMURAI
ニツテ附近草原のスリーフに乱れ咲く菊科植物の花上に多くは頭振舞ひの他
多く目撃。道後山駅附近にてモ一頭目撃す。

三) オカニスジボソヤマモチミウヘ前記植物の花上に普通。他に Argynnis
類ではクラキサンニヨウモニ強烈で多産。各所の花上に飛来しミツリヒコウテン
オオウニヤンスジニヨウモニ等も。又シーグテハト頭振舞ニツテ附近にて同
行ノ小野氏夫君曰く他には見き小ねがタジヨウサンミドリシジミ。ムラ
エマタラシジミ各一頭を採集するが此時期おそらく他に見かけは少つた。ス
ミナガジミは月中旬後多産する様である。道後山の猛獣報告で載つてこゝに
その文を載す。次外であります。

なお本誌 Vol.1 No.1 に小野洋氏の道後山産頸板蝶品目録がありまます。次外に

(69) 5

か記録されて居りますので、この機会に追加して置きます。
アカマイケモンシ、イナモンシ、ヒオドシタヨウ、ミナマカラスアゲハの4種であります。
(1951, 11, 3.)



* 歌劇

「カルタン王物語」

リムスキーコルサコフ

オニ幕第一場

* 管絃楽曲

「蜘蛛の巣」

アルバート ルツセル

オ一 「序曲」

オニ 「蟻の登場」

オ三 「蝶の々々」

オ四 「蜘蛛の孵化と踊」

オ五 「々々の葬送」

「蚊の踊り」

ホワイト

* ピアノ独奏曲

「胡蝶の曲」

シューマン

「蝶々のヒアノ練習曲オ21番(変ト長調)ショパン

* 歌曲

「のみの歌」

ムソルグスキー

岡田守夫

「昆虫ヒ音樂」より(M, IM.)

人間のために自然を愛し自然を祟る人間

私は小学生の頃より昆虫叢書は好きで、勿論現在も大いに興味をもつて居る。

七、八月

それで多くの虫を捕って天井は殺した。しかしよく考えて見ると一匹の虫を一つの生命をもつた存在であり、我々人間も同様に、自然の大いなる生命力現われとしてこの地上に生まれ出来たものではないか！生命は貴い大自然の意志が作りた存在ではないか。こう貴いものを、我々人間は虫という人間に對して弱い。しかも大自然の貴い創造物を侵して居るのではないか！虫を生を受けて居るのである。藝術の發展とか、文化の發展とか云うものは必ずしも我々の行為の正当化とはならぬものである。私は自分勝手な理論を振りまわす事を止めて自然の前に自然の子として、我々人間の人間自身の發展にのみ利する行為の許す方がいい。人間が人間の力のみする行為を當然とする事は或る意味に於いて人間よりれば「何ぞ」ではないだらうか。人間の前に他の生物を犠牲にしなければならぬのは一面又人間の裏面であると思う。唯々我々は自然の前にぬかずくとり他にはない。

[1951.11.8] (S. M. K)

先月号新入会員名訂正

河田和雄氏御芳名正河田和男と誤植し重要な仁所に謹謝を出し大変恐縮であります就きましては11月号に凡の御芳名を河田和雄と訂正する。

{新入会員}

38. 舟越俊平

39. 建石明男

40. 西村公夫

○編集後記 11月号

さればすでに衆外はかなり寒くなり、冬の日向ぼっこがよくなりました。さて皆さん、忙い中多御投稿力あり特に中原さんからは多大の御投稿力ありました事を心中にて深く感謝致しております！

今度原紙を扱うのは今度が始めてあります。本当に原稿がまだままであつて少々きて入って来て大変兎にくがつた事をお詫び致します。これを持つてカリ号を背出たくねたまことに、

バックナンバー分譲

すぐもしケ5,6,7,8,9,10,号各5.00円 1200
鳥形4号の昆虫10.00円 1200

すぐもし サイ基 カリ号

昭和26年11月25日 印刷

昭和26年11月25日 発行

編集者、近藤忠宣

印刷 企

発行所 新川町倉敷西小学校理財部教室内

倉敷昆虫同好会